

### 2025 年は国際協同組合年です

国連は毎年何らかの「国際年」を設け、世界に共通する重要テーマについて、各国や世界全体が1年間を通じて呼びかけや対策を行おうとしています。

こうした中で、2025 年は国際協同組合年と定められました。2012 年に続いて、2 回目です。協同組合をもっと盛んにして、SDGs（持続可能な開発目標）をもっと現実のものとするために、国連は協同組合を評価、重視し、期待を寄せています。また、国連と歩調を合わせて、世界各国の政府や協同組合に、国際協同組合年を活用することを求めています。

日本国内の協同組合においても事業・活動をさらに発展させ、協同組合に対する認知度を高めていく絶好の機会と捉え、政府や関係者の方々と協力しながら、この機会を活かしていきたいと考えています。

～国際協同組合年のロゴマーク～



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

このロゴは、よりよい世界を築くために世界中の人々が互いに結びつく様子を表しています。持続可能な開発目標（SDGs）のグラフィックアイデンティティから着想を得た3色で構成されており、赤は社会、青は経済、緑は環境を表しています。これらを合わせて、SDGsの実現に向けた協同組合の貢献を表しています。

日本では、協同組合に延べ1億820万人の組合員が加入しており、協同組合が生み出す付加価値額は4兆9千億円にもなります。（注1）。

また、日本における協同組合への加入率は個人ベースで46.5%、世帯ベースで51.4%と推計されます（注2）。

2025 国際協同組合年を迎えた今、協同組合同士が連携を深め、社会課題の解決に一層取り組んでいくことが期待されています。

（注1）『2021 年事業年度版協同組合統計表』（2024 年3月：日本協同組合連携機構）。複数組合に加入の場合は組合員数を重複計上。

（注2）『協同組合に関する全国意識調査 2022』（2023 年3月：日本協同組合連携機構）

私たちが日頃から利用している生協や農協（JA）などの「協同組合」は世界中に存在します。世界の協同組合の連合組織である「国際協同組合同盟」（ICA）には日本を含む百カ国以上の協同組合組織が加盟し、その組合員総数は延べ10億人を超えます。

1995年に開催されたICAの100周年記念大会・全体総会において、「協同組合らしさ」「協同組合の特質」を明らかにする「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」を採択しました。この原則は、世界中のさまざまな協同組合の指針となっており、日本の生協もこの原則に基づき運営されています。

## 2024年度第2回 役職員研修会を開催しました

日時 : 2025年3月13日(木)  
場所 : 生活協同組合コープやまぐち  
第3会議室  
時間 : 13:00~14:30  
参加者 : 70名(Web参加も含む)  
演題 : 「ロジカル・シンキング(論理的思考法)で業務力向上を」  
講師 : 中小企業診断士 篠田典彦氏

\*\*\*\*\*

篠田氏による研修会は3年連続になります。業務に役立つ内容の研修会で、参加者アンケートでも毎回好評です。

今回の研修会では、仕事を行う上で必要な基礎的な能力を高めることを目標に、どのような考え方、思考方法で業務にあたれば、より高い成果を生むことができるかを学びました。

まず、生協連の岡崎会長が、各会員生協でも業務の



岡崎会長

複雑化、これまでに無い考え方で新しいものを生み出していくことが必要とされています。本日は論理的な思考法を学んでほしいとあいさつをしました。

続いて篠田氏に講演をお願いしました。

ロジカルシンキングの目的は、分かりやすく伝えて相手に納得をしてもらうこと。物事を体系的に整理して筋道を立て、矛盾なく考える思考法だそうです。

- ① **体系的に整理** : 切り口(5W1Hのような)を考え、その切り口ごとに深掘りすること。
- ② **筋道をたてる** : どの切り口に関係している内容なのか、関係する切り口の問題点や課題を考えること
- ③ **矛盾なく考える** : 出てきた問題点や課題をどのように解決したら良いか、つじつまがあうやり方考えること。

この考え方をもとにロジカルシンキングをワーク形式で実践してみました。ワークはQRコードを読み取り、グーグルフォームに入力して送信します。結果はすぐ集約され、それに対してコメントなどをいただくながら、具体的な説明も



篠田典彦氏

行われました。最初はロジカルシンキングに慣れない部分もありましたが、続けていくことで徐々にこの考え方に慣れていくそうです。

切り口を考えるために活用できるフレームワークとして、5W1Hの他、QCDやプロセスが挙げられました。また、切り口を深掘りにする際に役立つフレームワークとして、MUCEやロジックツリーを用いる方法や、矛盾なく考えるために帰納法やピラミッドストラクチャーを活用することについても説明がありました。、それぞれの方法を用いて実際にワークシートに入力する取り組みをしました。

参加者からは「日常の業務の中に、意識的に物事を体系的に整理して筋道を立てて考えられるようにすべきだと思った。」「全て部下に指示するのではなくあえて考えさせてみることも大切なかもしれないと思いました。」「ロジカルシンキングという言葉は初めて耳にしたが、今まで頭の中でなんとなく考えていたことを論理的に考え、文字起こしてみると興味深かった。」など普段の業務に活かしていきたいという積極的な感想が多く寄せられました。



## 県生協連 生協講座 ～山口県立大学で 生協講義を行いました～

県生協連は、2019年に創立70周年の記念事業として、初めて山口県立大学で生協講座を開きました。コロナ禍などで開催ができていませんでしたが、今回は山口県立大学で開催させていただきました。今後の山口県における生協運動の更なる発展のために、若い世代に生協を知ってもらうことを目標に掲げています。

日時：2025年1月9日 16:30～17:50

講師：山口県生協連 専務理事 荒瀬 泰

講義テーマ「協同・共助の組織である『生活協同組合』の歴史と現在の事業・活動について」

受講者：約100名

初めに、生協がどんな事業や活動をしているのかを、生活協同組合コープやまぐちの事業活動を映像で紹介しながら説明しました。災害時に生協が行った支援、宅配事業、店舗事業、SDGsの行動目標と活動、誰からも頼りにされる生協づくりを“一緒に”をめざしていることを紹介しました。

映像紹介の後、協同組合と生活協同組合について、ICA（国際協同組合同盟）の定義や株式会社との違い、協同組合の種類について話しました。また、生活協同組合の歴史と社会的背景について、産業革命～ロッヂデール公正開拓者組合の誕生～ヨーロッパから世界へのひろがりについて説明。日本での生協発展過程と社会的背景を、消費者問題・社会問題と生協の動きを比較しながら説明しました。近年は人口減少と高齢化が進み福祉のニーズが高まってきた事など生協は時代のニーズに合わせて発展してきたことを話しました。

受講された学生さんからは、「生協は、地域に根差した活動を通じて、住民一人ひとりの生活を支える存在であると感じました。地域コミュニティや福祉、環境問題への

取り組みを見ていると、生協が単なる「消費の場」ではなく、地域全体を支えるプラットフォームであることを強く実感しました。」

「生協の特徴は人と人との繋がりや地域の人に寄り添った活動していることではないかと感じた。」

「今回の講義を通じて、生協が持つ福祉的な意味を深く理解し、自分自身も地域社会の一員としてどのように貢献できるかを考える良いきっかけになりました。今後も生協の活動に注目し、共に支え合う地域社会づくりに関心を持ち続けたいと思います。」

「環境問題に配慮した商品開発や、地域社会での支え合い活動、災害時の支援など、現代のニーズに応じた取り組みが幅広く行われていることを知り、協同組合の柔軟性や持続可能性を感じました。特に、組合員一人ひとりが主体的に関わることで、社会にポジティブな変化をもたらしている点に深い感銘を受けました。」などの感想を寄せていただきました。



## 2024年度 県連主催「第14回監事・ 監事スタッフ研修会」を開催しました。

この研修会は、会員生協における法令順守（コンプライアンス）と健全な組織運営を実現するための管理統制（ガバナンス）の維持・強化を目的としています。

2011年度より継続して開催されており、監事およびそのスタッフの役割、監査内容、監査方法について学ぶ機会を提供しています。

また、生協運営に関わる法改正への適切な対応を目指した学習の場であるとともに、最新のコンプライアンス関連情報を学ぶ機会として位置づけられています。

日時：2025年2月14日 13時～16時

会場：コミュニティーセンター「はあもにい〜♪」

テーマ：「監事の役割と監事監査の基本、  
期末監査のポイント」

講師：日本生協連総合マネジメント本部 法務部  
井藤 康治氏、太田 史子氏

参加者：4生協6名と事務局の合計8名



開会のあいさつの後、井藤氏が監事の役割と監事監査の基本、期末監査のポイントを説明されました。

1. 生協のガバナンスと機関運営における監事のポジション
2. 監査業務の基本～法定の監査報告記載事項から考える～
3. 1年間の監査業務の見取り図（業務監査・会計監査と期初・期中・期末監査）
4. 期末監査のポイント

後半は法務関係の情報について、太田氏よりリモートで説明していただきました。参加者からの質問と交流をおこない、研修会を終了しました。

## 山口県ユニセフ協会の活動報告

### ユニセフカレンダー募金

今年も東京銀座の老舗文具店「伊東屋」様のご厚意により、2025年カレンダーを日本ユニセフ協会へ寄贈いただきました。このカレンダーは、皆さまの募金協力へ



のささやかなお礼の品としてお渡しいたします。山口県ユニセフ協会ではコープやまぐち様の県内店舗にご協力いただき、カレンダーと募金箱を設置いたしました。多くの方に楽しみにしていただき、たくさんの募金協力をいただいております。

## 消費者ネットやまぐちの活動報告

消費者ネットやまぐちは、山口県の受託事業として、高齢者の詐欺被害防止を目的としたの見守り活動や、インターネットにおける消費者トラブルを防ぐためのセミナーを県内各地で開催しています。3月24日（火）には防府市のルルサス防府にて、弁護士法人いたむら法律事務所の藤村亮平弁護士を講師にお迎えし、「ネット事件簿“2025”～SNSに潜む消費者トラブル」という演題でセミナーを開催しました。



発行日：2025/3/27